

薬や病気のあれこれニュース

鹿屋市立南小学校学校薬剤師 鶴田総宏

④ カエルが作った薬

ガンなどの激痛を抑える薬として、モルヒネと呼ばれる鎮痛剤(痛み止め)が現在使われております。その数百倍の強さのある鎮痛剤が7年前に発見されました。それは中南米のジャングルに生息するカエル(ヤドクガエル)の皮膚の抽出物からです。カエルが鳥などの天敵から身を守るために持っている毒の一つだといわれています。

古くから毒が医薬品につながることはたくさんあります。今回のカエルもまさにその一つです。ところが体長2～3センチのヤドクガエルから取れるこの物質は、数百匹集めてもわずか0.5ミリグラムと極微量なため大量生産するのが困難なのです。ヒトに対して安全に使うことができ、副作用ができるだけ少なく、大量生産できるようにするためには研究する余地がまだまだあるようです。

薬が市場に出回るまで約10年かかるといわれています。開発が順調にいけば、カエルから生まれた新しい鎮痛剤が医療現場に登場する日は近いでしょう。